

炎天下の休日、南河内の山をハイキングしていると...

「猛禽類」と思われる鳥が2羽、目の前の歩道脇の茂みから飛び立ったのです。その内、1羽は明らかに尾羽が短いことがわかりましたので、幼鳥なのでしょう。飛び去っていったので写真撮影はあきらめたのですが、何と...

親鳥が15m程先の歩道上に舞い降りたのです。しかも、足で立っているのではなく"うずくまった"ような姿勢なのです。

体長は30cmくらい、これは間違いなく「ヨタカ」です。実物を見るのは初めてです！！

できるだけ足音を立てずに近づくと...

再び飛び立ったのですが、やはり少し先の歩道上に舞い降りて座り込むのです。これを3度繰り返しましたが、3度目はあの幼鳥も近くにいたようで、親鳥と一緒に飛び立ちました。

幼鳥は森林内に姿を消しましたが、親鳥はまたまた15m程先の歩道上に座ったのです。

これは幼鳥を守るための「偽傷行動」のようなものなのでしょう。

幼鳥もよく観察したかったのですが、親鳥がこちらから見える範囲で一定の距離(約15m)を保ちながら少しずつ移動するので、どうしてもそちらに気が行ってしまう、ついに幼鳥はどこに行ったのか、全くわからなくなってしまったのです。

完全に親鳥の「策略」にかかってしまったのです。

でも親鳥の撮影はできました(別添のとおりです)。

ちなみに「ヨタカ」は、昼間は太い木の枝などに“ちょこん”と座ってじっとしており、夜間に活動するようです。

主に昆虫食で、夕暮れになると「くちばし」を大きく開けて羽音を立てずに飛び回り、口の中に入ってきた虫を食べる、という豪快な食事をするらしいのです。

参考までに、「レッドデータブック」でこの鳥を調べてみると...

和歌山県では「絶滅危惧 類」に、兵庫・大阪・京都・奈良・滋賀の各府県ではいずれも「絶滅危惧 類」に分類されており、さらに“環境省カテゴリ”では「絶滅危惧 類」...

もはやどこへ出かけても、出会うことが非常に難しくなってしまった野鳥だということがわかりました。





